

宇都隆史 先生 ～安全保障の側面から～

安全保障や国防は、国政レベルの問題なので地方自治、特に報告会等ではあまり話した事も有りませんでしたし、話せなかったのが現実でした。

しかし、この度、先生お話をお聞きし少し考えが整理できました。先の衆議院選挙で「国防軍」というフレーズにかなり難色を示したのも事実です。

特に戦争を経験した人や戦後の苦しい時期を過ごされた年配の方々より、かなり厳しいお言葉もいただきましたが、その度に、返す事が出来ないままでした。

国の定義、そしてその国を守る必要性、それぞれが繋がった時が、国防であり、普段から行っている先祖への墓参りや仏壇に手を合わせる事、新年や豊作を祈念する祭礼などの延長線上に国防があると思えば、何も今すぐに戦争を起こそうとしているのではないと、今後は説明が出来るようになりました。

そして、その為には日本国憲法をどう見るのか、憲法によって何が制限されているのかをしっかりと理解し、それを今後は報告会の中でも取り入れないと、国政が国防を行うという、間違っていた価値観を自らが改め、国会で決める事は手法であり、日本国を守るのは私たち国民で有る事を今後は報告会等でも取上げていきます。